



カケハシ・プロジェクト（米国） 「アメリカで沖縄の未来を考える」（TOFU）派遣の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

「アメリカで沖縄の未来を考える」（TOFU: Think of Okinawa's Future in the United States）プログラムは関係者との意見交換や各種視察等を通じ、英語を用いて様々な分野について学ぶ教育機会を提供することを目的として、沖縄の将来を担う高校生・専門学校生・大学生 30 名を米国ワシントン D.C.及びニューヨーク市へ派遣しました。米国滞在中は、様々な機関への訪問や学生との相互交流を通じ、参加者自身がグローバルな視点で日米同盟を見つめ、その意義を様々な実体験に根差した形で再認識することで、日本の政治・経済・社会・文化・歴史・外交政策等に関する理解を深めました。また、参加者は米国滞在中に交流先で出会った人々に向けて日本や沖縄の魅力を発信するとともに、プログラムでの学びや日本の外交政策について伝えました。

【参加者】沖縄出身の高校生 18 名、高等専門学校 1 名、専門学校生 2 名、大学生 9 名 合計 30 名

【訪問地】東京都、コロンビア特別区（ワシントン D.C.）、ニューヨーク州ニューヨーク市

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）:

1 月 28 日（水曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】 事業目的・ミッション、日程説明、渡航上の注意、感染症対策等

■ 派遣プログラム:

3 月 18 日（水曜日） 【視察】外交史料館

【表敬訪問】

クリストファー・アリソン在京米国大使館公使、

ケルビン・ゴルマン在日米軍副司令官

【視察】防衛省ツアー

【表敬訪問】飯塚 恵子 読売新聞編集委員

【表敬訪問】木原 稔 内閣官房長官

【表敬訪問】堀井 巖 外務副大臣

【表敬訪問】宮崎 政久 防衛副大臣

3 月 19 日（木曜日） 羽田空港より出国、ワシントン・ダレス国際空港より米国入国

【学校交流】

Columbia Heights Educational Campus (CHEC) Bell Multicultural High School

【講義】戦略国際問題研究所（CSIS）

講師：ニコラス・セチェイニー地政学・外交政策部門副部長

3月20日（金曜日）

【視察】アメリカ合衆国議会議事堂

【表敬訪問】

メイジー・ヒロノ上院議員事務所及びティム・ケイン上院議員事務所補佐官

【視察】アーリントン国立墓地

【表敬訪問】アメリカ合衆国国務省 マーガレット・シャン 国務省日本部次長

【表敬訪問】在アメリカ合衆国日本国大使館 山田 重夫 駐米大使

3月21日（土曜日）

【学校交流】ジョージ・ワシントン大学

【視察】全米日系米国人記念碑

コロンビア特別区（ワシントン D.C.）からニューヨーク市へ移動

3月22日（日曜日）

【視察】自由の女神像（スタテンアイランドフェリー乗船）

【視察】国立 911 メモリアル・911 博物館

【視察】タイムズスクエア

【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

3月23日（月曜日）

【表敬訪問】ジャパン・ソサエティー ジョシュア・ウォーカー 理事長

【視察】国際連合本部見学ツアー

【表敬訪問】国際連合日本政府代表部 御巫 智洋 特命全権大使・次席常駐代表

【講義】小川 和美 国連平和活動局地雷対策サービス部部长

【講義】国際連合日本政府代表部 鈴木 孝宏 政務部 参事官

【交流】在ニューヨーク総領事館主催交流会

3月24日（火曜日）

ジョン・F・ケネディ国際空港（ニューヨーク州ニューヨーク）より米国出国

3月25日（水曜日）

羽田空港より入国

2. 記録写真

派遣プログラム



2026年3月18日【表敬訪問】クリストファー・アリソン在京米国大使館公使、ケルビン・ゴルマン在日米軍副司令官



2026年3月18日【視察】
防衛省ツアー



2026 年 3 月 18 日【表敬訪問】
堀井 巖 外務副大臣



2026 年 3 月 18 日【表敬訪問】
宮崎 政久 防衛副大臣



2026 年 3 月 19 日【学校交流】
Columbia Heights Educational Campus (CHEC)
Bell Multicultural High School



2026 年 3 月 19 日【講義】
戦略国際問題研究所 (CSIS)



2026 年 3 月 20 日【視察】
アメリカ合衆国議会議事堂



2026 年 3 月 20 日【表敬訪問】
アメリカ合衆国国務省



2026 年 3 月 21 日【学校交流】
ジョージ・ワシントン大学



2026 年 3 月 21 日【視察】
日系アメリカ人メモリアル

	
2026 年 3 月 22 日【視察】自由の女神像（スタテンアイランドフェリー乗船）	2026 年 3 月 22 日【視察】 国立 911 メモリアル ・ 911 博物館
	
2026 年 3 月 22 日【視察】タイムズスクエア	2026 年 3 月 23 日【表敬訪問】ジャパン・ソサエティー ジョシュア・ウォーカー 理事長
	
3 月 23 日【講義】 学生同士でディスカッションをするセッション	3 月 23 日【交流】在ニューヨーク総領事館主催交流会（参加者による沖縄文化のプレゼンテーションを通じて交流を楽しむ様子）

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 高校生

訪問先では、普段対話することのできない、沖縄県民とは異なるバックグラウンドを持つ方々と交流することができました。特に、大使館関係者や政府関係者、メモリアルなどの歴史、専門家の方々に直接質問できたことは大変貴重であり、様々な立場からの新しい視点に触れることができ、自身の価値観や考え方に変化をもたらすきっかけとなりました。

また、このように異なる立場や背景を持つ方々と対話すること自体がある意味で外交の一端を担う行為であると感じました。前提となる認識の違いが考え方の違いとして現れることを実感し、対話の重要性を強く認識するとともに、外交を体感する貴重な機会になりました。

◆ 大学生

在アメリカ合衆国日本国大使館の視察は自分の中でも特に心に残っています。山田大使がおっしゃっていた「沖縄の方々が日米同盟を支えている」という内容や人との接点が全てのベースとなりそれが信頼関係となり積み重なることによって相手の国を知ることにもつながるという話を聞いて、今後の日米関係をさらにより良くしていくためには私達は今後も学び続け多くの人との交流する機会を持ち、気になることや関心のあることは追求し続けていくことが大事なのではないかと思いました。

◆ 高校生

学校交流で沖縄を知っている学生は少ない中、沖縄を知っていると答えた学生は、両親等が沖縄の米軍基地で勤めていたからと聞き、基地があることはどうしてもできないことと考えていたイメージが、日米をつなぐ重要な施設であると気づくきっかけになりました。この気づきの後から、他の訪問先でも、沖縄の基地が重要であるという話がスラスラと耳に入ってくるようになりました。沖縄の米軍基地は日米間で取り決められたルールのもとで存在している以上に、両国民にとって知るきっかけになっているのだと改めて感じました。

4. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2026 年 3 月 24 日（Instagram） 高校生 私が今回プログラムで学んだことは自分の意見を持ち、その意見を伝え、また相手の意見を聞くことの大切さです。必ずしも受け入れる必要はなく、異なる意見も知ることが大切だとわかりました。沖縄をよりよくするためには私たちが沖縄の声として伝えていく必要があるとわかったので、自分	2026 年 3 月 23 日（Instagram） 高校生 今回 TOFU プログラムで私が特に学んだことは「人として相手と対話する、架け橋を作れる人になると、良い未来を作れる」ということです。国連ツアーや、ジャパン・ソサエティー、またガイドの話などを聞いて、「平和な未来を作ること」に少しでも貢献できるひとになりたい」という私の

自身の考えを持ち、周りに伝えていけるようになります。	目標に近づくヒントがもらえました。 参加するまでは、どこか大きな目標に見えたことも、大切なことは身近にあって、それは自分にもできることだということがわかりました。
2026 年 3 月 24 日（Instagram） 高校生 TOFU プログラム（Think of Okinawa's Future in the U.S.）に参加することができ、本当に光栄でした。沖縄の未来や、より広い意味での日米関係とのつながりについて考える貴重な機会となりました。 首相官邸、外務省、アメリカ大使館、CSIS、ジョージ・ワシントン大学、そして国連など、さまざまな機関を訪れ、政府、外交、学術、メディア、国際関係の分野で活躍されている方々からお話を伺うことができました。 特に印象に残ったのは、日米関係は政策だけで成り立っているわけではなく、信頼や対話、歴史への理解、そして地域の人々の視点によって形づくられているということです。沖縄は、日米同盟が日常生活の中で最も直接的に感じられる場所のひとつで、沖縄出身の私にとって、これはとても意味のある気づきでした。 今回の経験を通して、これからの日米関係には戦略的な協力だけでなく、さまざまな立場の声に耳を傾け、相互理解を深める努力が欠かせないのだ	2026 年 4 月 2 日（ジャパン・ソサエティー ジョシュア・ウォーカー 理事長の LinkedIn） ジャパン・ソサエティーで、日本の外務省が実施する「TOFU（Think of Okinawa's Future in the United States）」プログラムを通じて沖縄から訪れていた学生の皆さんとお会いする機会がありました。思慮深く、グローバルな視点を持ち、変化し続ける世界の中で自分たちがどこに位置づけられるのかについて、まさに本質的な問いを投げかけてくれる、刺激的な学生たちでした。

と、よりはっきりと実感しました。また、こうした対話の場に若い世代が関わることの大切さも改めて感じました。

このような機会をいただけたこと、そしてプログラムを通して多くの学びを共有して下さった皆さまに、心から感謝しています。

5. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、コロンビア特別区（ワシントン D.C.）、ニューヨーク州ニューヨーク

全 5 グループ発表

グループ 2	
嘉手納外語塾で月1回行われている国際交流の場を利用して、米軍基地所屬のアメリカ人と若い世代に意見交換をしてもらう 【国際交流の流れ】 - アイスブレイク 1 対 1 で各自 2 分間テーマを決めて喋る(テーマ: 沖縄の文化、アメリカの文化について知ることなど) - A big mind blows everybody like me who... (グループワーク) - 価値観マッピング - 安全保障/経済/環境/生活についてなど、個人的に異文化理解をする上で大切だと思うことに優先順位をつけて、グループで意見交換をする - 米軍基地のメリット/デメリットについての意見交換 - 沖縄側・日本政府側・米軍基地側の 3 グループに分かれて、それぞれ米軍基地のメリットとデメリットを出し、各グループでまとまった意見を発表してもらうこと (事後活動) 別途 3 週間程度 1 週間以内に提出 で、自分とは違う意見を知ることができる 【アクションプランでの目的、達成したいこと】 私たちは TOFU プログラムを通して、様々な視点から見た日米地位協定や沖縄に米軍基地があることの意味を学びました。「日米関係は沖縄の人に支えられている」「米軍としても沖縄の若い人の意見が聞きたい」「外務省や日本政府も沖縄の意見をアメリカ側に伝えている」「日米地位協定はアメリカ側がかなり譲歩した協定である」という、今まで沖縄に住んでいて聞くこともなかった視点を、シンクタンクのニコラス・セサニーニ氏や山田大使をはじめ、在日米軍幹部などからの抗議や質疑応答を通して知ることができました。この発見や新しい視点を持つことの大切さ、異感できる/できないに関わらず相手の話を受け入れる大切さ、色んな話を聞いて自分の意見を持つことの大切さを参加者に体験してほしいという思いがあります。	

【成果の発表】

◆ プログラムでの学び

プログラムを通して、日米地位協定や米軍基地問題について、沖縄・日本政府・米軍側で認識が大きく異なることを知り、多角的に物事を見る重要性を学びました。また、米軍基地が身近にある環境で育ってきたからこそ見えていなかった、沖縄の地理的優位性や日米関係における沖縄の存在の大きさにも気づくことができました。さらに、対話を通して相手の意見を受け止め、自分の考えを持つことの大切さや、文化や価値観の違いが理解につながることを実感しました。

【アクション・プラン】

私たちは、TOFU プログラムで得た「多様な視点を知ることの大切さ」や「対話によって理解が深まる」という学びを、より多くの若い世代にも体験してもらいたいと考えています。そのため、嘉手納外語塾で月 1 回行われている国際交流の場を活用し、米軍基地に所属する米国人と沖縄の若者が意見交換できる機会をつくります。

交流では、まず 1 対 1 のテーマトークなどのアイスブレイクで話しやすい雰囲気をつくり、その後、価値観マッピングを用いて安全保障・経済・環境・生活などのテーマについて意見を共有します。さらに、沖縄側・日本政府側・米軍側の立場に分かれて基地のメリット・デメリットを整理し、発表を通して互いの視点に触れる機会をつくります。こうした対話の場を通して、参加者が新しい視点を得たり、相手の意見を受け止める姿勢を身につけたりするきっかけを提供したいと考えています。

グループ 3

一番伝えたい目標「沖縄と世界の未来をよくするには…」
 そのためには①
 ・互いの意見のことを分かり合える人を増やすこと
 ・多くの大人を通じての意見を得られた
 ・違う意見も分かり合えることが解決への道

自分たちが学んだのは①
 ファイティングは何も解決しない。
 ・実際に、今の戦争も意見が対立していることが多い。
 ・お互いにとって結果的な解決策が思いついていない。
 そうなると
 「どちらかが苦しんだり、どちらも妥協した感じになってしまっている。」
 ・51 対 49 の外交を目指すには分かり合える人を増やすことが大切。

具体的なアクションプランについて①
 STEP1
 中高生をターゲットにして、対話を通して自分の意見を考える場所を提供する。
 STEP2
 1 でやったことを他人に対して他人事と思わないように、また結果としてちゃんとつなげられるように考える場の提供だけで終わらずに発表する場を提供する。
 ②具体的なイメージ②
 ・中高学校にアポ取りしてアクションプランをできる時間をとってもらう。
 ・グループワークを通して自分の意見と相手の意見を知り、違いがあるという事を実感してもらう。
 「※正解を考えてほしくない※」
 問題提起の具体案として①
 ・分かり合うとは
 ・平和とは
 ・どんな未来になってほしい
 もし…
 具体的に基地問題と決めてしまうと賛否の対立がテーマとなってしまうから現状と変わら

【成果の発表】

◆ プログラムでの学び

プログラムを通して、対立や衝突では何も解決せず、相手の意見を理解しようとする姿勢が大切であることを学びました。実際の国際問題でも、意見の違いから解決策が見えにくく、どちらかが苦しんだり、双方が妥協する状況が生まれていることを知りました。また、51 対 49 の外交を目指すためには、互いの意見を分かり合える人を増やすことが重要であると感じました。さらに、ケーススタディや対話を通して、多様な意見に触れ、違いを受け入れる姿勢の大切さを実感しました。

【アクション・プラン】

私たちは、TOFU プログラムで得た「互いの意見を理解しようとする姿勢の大切さ」を、より若い世代にも体験してもらいたいと考えています。そのため、中高生を対象に、対話を通して自分の意見を考え、他者の考え方に触れられる場をつくります。

まずは学校に協力を依頼し、授業の一部を活用して対話型のワークショップを実施します。ワークでは、グループで意見を共有しながら「分かり合うとは何か」「平和とは何か」「どんな未来を望むか」などのテーマについて考えてもらいます。特定の賛否が分かれるテーマを避け、正解を求めずに多様な意見が自然に出てくるようにすることを大切にします。また、相手の意見を尊重することや無理に話さなくてもよいことなど、安心して参加できるルールを共有し、多様な意見に触れながら互いを理解し合う姿勢を育むことを目指します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）